

第一課

主よ、私たちに祈りを教えてください

唯一の教師

「さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとり、イエスに言った。『主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。』」

(ルカ一一・二)

弟子たちはずっとキリストとともにいて、キリストが祈る姿を見ました。彼らは、キリストのすばらしい公生涯とその隠れた祈りの生活との関係について学び、またキリストが祈りの技術の巨匠であると信じることを学びました——キリストのように祈る者は他にいませんでした。そこで、彼らはみもとに来て、「主よ、私たちに祈りを教えてください」と言ったのです。数年後、弟子たちは、キリストの教えの中で、祈りの教えに勝ってすばらしく、恵みに満ちたものはなかったと、私たちに教えています。

今でも、もし主がどこかで祈っておられる姿を弟子たちが見受けるならば、「主よ、私たちに

祈りを教えてください」という同じ願いを繰り返す必要を感じたことでしよう。私たちは、キリスト者生活において成長するに従って、絶えずとりなしておられる愛する主への思いと信仰が、これまでにも増して尊いものとなり、これまで以上にキリストのようになりたいという希望に心が引かれるようになります。キリストの祈られる姿を見て、キリストのように祈る者はなく、キリストのように教える者もないことを思い起す時、「主よ、私たちに祈りを教えてください」という弟子たちの願いこそ、私たちが必要としているそのものであると感じることでしよう。また、キリストはどのようにしてすべてを所有し、また御自身が私たちのものであり、私たちのいのちであるかを考える時に、私たちはただ求めるしかないことを確信するのです。しかも、キリストは喜んで御自身との親しい交わりにあずからせてくださり、御自身が祈られたように、私たちに祈りを教えてくださいと、確信できるようになるのです。

兄弟たちよ。恵み深い主のみもとに行こうではありませんか。そして、聖なる祈りととりなしの技術を学びたいと願っている者たちに対して常に門戸を開いている祈りの学校に、改めて私たちの名を登録させていただくではありませんか。そうです。きょうというこの日に、昔の弟子たちのように、「主よ、私たちに祈りを教えてください」と願おうではありませんか。私たちはこの願いについて瞑想する時、自分の願いごとの一言一言が非常に意義あるものであることを見

出すでしょう。

「主よ、私たちに祈りを教えてください。」そうです。祈りです。これこそ、私たちが教えてい
ただかなければならないものです。祈りの初歩は簡単で、どんな幼子でさえも祈ることができま
す。同時に祈りは、最も気高く、最も聖いわざでもあります。祈りは、目に見えない、最も聖な
るお方との交わりです。永遠の世界の権力者たちも、この祈りによって左右されるのです。祈り
は宗教の真髄であり、あらゆる祝福の管、力といのちの秘訣です。自分のためばかりでなく、他
の人々のため、教会のため、世のために、祈りによって神は御自身とその御力をとらえる力を私
たちにお与えになりました。約束の成就、御国の到来、神の栄光の完全な現れは、祈りにかかっ
ているのです。それなのに、私たちはこの幸いなわざに対して、なんと怠惰で、ふさわしくない
者でしょう。私たちに正しい祈りをさせることができるのは、ただ聖霊だけです。私たちはなん
とたやすく欺かれて、ただの形式主義に陥ってしまうことでしょう。初期の訓練、教会の教え、
習慣の影響、感情の興奮などが、なんとたやすく私たちをいざなって、霊的な力の全くない、役
に立たない祈りへと導いて行くことでしょう。神の力をとらえる祈り、大きな成果をあげる祈
り、天の門を実際に大きく開かせることのできる祈り、このような祈りを教えてほしい、と叫ば
ない者がいるでしょうか。

イエスは、特に祈りに力を得たいと願う贖われた者たちを訓練する学校を開校されました。

「主よ、私たちは教えられなければなりません。私たちに祈ることを教えてください」という願いを携えて、この学校に入学しようではありませんか。

「主よ、私たちに祈りを教えてください。」そうです。主よ、私たちにです。あなたのみことばを読むと、昔の信仰ある人々がどんな力をもって常に祈り、またその祈りの答として、あのような力ある奇蹟が起ったかが分ります。これが、準備時代である旧約のもとで起ったのなら、契約の成就された現代において、あなたは御民の真中にいましたもうあなたの御臨在の確かなしるしを見せてくださらないことがありませんか。私たちは、あなたが、御名による祈りの力の約束を使徒たちにお与えになったことを聞き、また彼らがその約束の真実であることを実に見事に経験したのを見ました。それはまた、私たちにとても真実であることを確かに知っています。今の時代においても、あなたは、あなたを完全に信頼する者にあなたの御力の輝かしいしるしをお与えになることを、私たちは絶えず耳にしています。主よ、彼らも皆、私たちと同じような人間です。私たちに、そのように祈ることを教えてください。約束は私たちのもの、天界の力も賜物も私たちのものです。それらのものをあふれるばかりいただけるように、祈りを教えてください。あなたは私たちに、みわざを託してくださいました。御国の到来は、私たちの祈りにもかかっています。また私たちの祈りによっても、あなたは御名に栄光を帰してくださいます。」主よ、私たちに祈りを教えてください。」そうです、私たちにです。私たちはあなたの生徒です。

あなたに教えていただきたいのです。「主よ、私たちに祈りを教えてください。」

「主よ、私たちに祈りを教えてください。」確かに私たちは、今こそ祈りを教えらるる必要性を感じています。初めは、こんなにも簡単なものはないと思っても、後にはこんなにも難しいものはないと思うようになり、次のように告白せざるを得なくなるのです。私たちは今初めて、どのように祈るべきかを知りました。私たちは確かに明確な約束を伴った神のみことばを持っています。しかし、罪が私たちの心を暗くしたために、私たちは必ずしもみことばの適用の仕方を知っているとは限らないのです。霊的な事柄においても、私たちは必ずしも最も必要なものを求めているとは限らないし、聖所のおきてに従って祈ることに失敗してしまうかもしれないのです。また、この世的な事柄においてはなおのこと、御父が与えてくださった、必要なものを求めずばらしい自由を、自分自身に役立てることができないのです。何を求めるべきかをよく理解している時でさえ、その祈りを受け入れられるものとするためには、まだまだ私たちに必要なものが多くあります。効果ある祈りは、神の栄光を求め、そのみこころに完全に服従し、信仰の確信にもとづいたイエスの御名による、忍耐をもっての祈りでなければなりません。これらをすべて私たちは修得しなければなりません。祈りは、ただ多く祈る祈りの学校でこそ、初めて修得できるものなのです。実行なくして完成なし、です。私たちは、自分の無知と無価値を覚える心の痛みと、信仰と疑いの葛藤の中で、効果的な祈りの天的技術を修得していくのです。なぜなら、私

私たちは気がつかなくとも、信仰と祈りの創始者であり完成者であるお方が私たちの祈りを見守っておられ、御自分に信頼する者の祈りの学校における学びが全うされるまで、これを顧みられるからです。私たちのすべての祈りの深いところで、私たちの無知なることを認め、主を完全な教師と信じる心から出てくる素直な気持になりたいものです。そうすれば、必ず多くの教えを受け、力強い祈りを身につけることができますようになります。そうです、私たちは主に信頼することを学び、主は私たちに祈ることを教えてくださるのです。

「主よ、私たちに祈りを教えてください。」イエスのように教えることのできる者は、ただイエスだけです。だからこそ、私たちは、「主よ、私たちに祈りを教えてください」と願うのです。生徒には、自分の仕事をよくわきまえ、教える賜物を持ち、忍耐と愛をもってへりくだり、その必要にこたえることのできる教師が必要です。神はほむべきかな、イエスこそそのとおりのお方、否それ以上のお方です。イエスは、祈りとは何かをよくよく御存知であり、祈りを教えるイエスは自ら祈られるお方です。イエスは、祈りとは何かを御存知です。イエスは、地上での試みと涙の御生涯において祈りを学ばれました。天において、祈りは今もイエスの愛される務めとなっています。そこでのイエスの生活は祈りなのです。主が最も喜ばれることは、御自分が御父のもとに連れて行くことのできる者、⁽²⁾周囲の者たちのために祈って神の祝福をもたらす力を受けることのできる者、御国がこの地に明らかに現されるためにともしやなしの祈りができるよう養

成することのできる者を見出すことです。イエスは教え方をよく御存知です。時には、非常な切迫感により、また時には喜びをもたらす確信により、また時にはみことばの教えにより、また時には祈りが聞かれるにはどうしたらよいかを知っている者のあかしによって、祈りを教えてくださいます。聖霊によって、イエスは私たちの心に近づき、祈りを妨げている罪を示し、神を喜ばせることのできる確信を与えることによって、私たちに祈りを教えてくださいます。何をどう祈るかということだけでなく、私たちのうちに祈りの霊を吹き込み、私たちのうちにあって偉大なとりなし手となつてくださることによって、祈ることを教えてくださいます。実に私たちは大いなる喜びをもって、「イエスのように教えてくださる方が他にいますか」と言うことができるでしょう。イエスは弟子たちに説教の仕方は教えられず、ただ祈ることだけを教えられました。上手に説教することの必要についてはあまり多くを語られませんでした。上手に祈ることについては多くを語られたのです。神に対する話し方を知ることが、人に対する話し方を知ることと勝っています。人に対して力ある者であるよりも、神に対して力ある者であることが第一です。そしてイエスは、私たちに祈り方を教えることを好まれるのです。

愛する弟子の皆さん、あなたがたはどう考えますか。祈り方についての特別講座を一月ほど開いていただくように、主にお願ひする必要はないでしょうか。イエスが地上で語られたみことばを瞑想し、あのような教師がいてくださるからには、私たちの進歩は間違いないという絶対の

確信をもって、その教えに身をゆだねようではありませんか。ただ瞑想するだけでなく、御座のもので祈り、待ち望み、とりなしのわざの訓練を受ける時間を取ろうではありませんか。私たちが口ごもり、恐れを抱く時にも、主がみわざを完璧に進めておられることを確信してそうしようではありませんか。主の祈りはすべてのちであり、主はこのいのちを私たちに吹き込まれるのです。主は、私たちを主の義といのちの共有者としてくださるとともに、とりなしの祈りの共働者としてもくださるのです。私たちは主の体の肢体として、また聖なる祭司として、人々のために神に懇願し、祈り続けるキリストのみわざにあずかるのです。だから私たちは、自分たちが無知で弱い者であっても、喜んで「主よ、私たちに祈りを教えてください」と願おうではありませんか。

今も生きて祈っておられる恵み深い主よ！ あなたは私に祈ることを教え、また常に祈りに生きるべきことを教えられます。こうして、あなたは私を天にある栄光にあずからせ、また私が絶えず祈り、神の御前に祭司として立ち得るようになることを喜ばれます。

主イエスよ！ 願わくはきょう、私の名を、本当の祈りを知らないと告白する者たちの中に加えてください。そして、特に祈りを教えるコースを設けてください。主よ！ 祈りの学校に主と

ともにとどまり、また主が私を訓練する時間を十分に取ることができるように教え導いてください。願わくは、自分の無知、すばらしい祈りの特権と力、祈りの霊としての聖霊の必要を私に自覚させてください。また、自分は知っているという思いを取り除き、素直な態度と貧しい心をもって御前にひざまずかせてください。

主よ、私にはあなたのような教師が与えられているのですから、祈りを学ぶことができますという確信を与えてください。私には、常に御父に祈り、その祈りによってこの世と教会とを支配したもうイエスという教師がおいになるという確信があるので恐れることはありません。主よ、あなたは、私が祈りの世界の奥義を知りたいと願う時に、求めに応じて教えてください。しかし、それを知る必要のない時は、あなたは私の信仰を強めて、神に栄光を帰するように教えてください。

恵み深い主よ！ あなたは御自身に信頼する生徒を辱めるようなことはなさいません。あなたの恵みによって、あなたの生徒もあなたに恥をもたらずようなことはいたしません。アーメン。